



エール

「伝える」「繋げる」「備える」を応援する
防災環境都市・仙台的市民情報誌です。

仙台市では、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、防災力のあるまちをつくり、ひとをはぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。「えーる」では、防災・減災や環境に関わるさまざまな分野で活躍する“ひと”に注目し、その取り組みを紹介していきます。

2016 No.1

テーマ

熊本地震
と
仙台的市民



表紙インタビュー 伝える仙台

東北大学地域復興プロジェクト HARU (はる)
東北大学教育学部 3 年
西塚 孝平 さん(仙台的出身)

熊本へ伝える、“心の復興”。

小学生の頃からボランティアに関心があり、大学入学後、HARU (はる) で活動を始めました。HARU は東日本大震災直後に先輩たちが立ち上げたボランティア団体で、震災当初は避難所運営支援やがれき撤去、その後は仮設住宅に入居されている方々の心のケアなど、さまざまな活動を行ってきました。自分自身もこれまで、仮設住宅での足湯ボランティアなどの活動に参加しました。

熊本地震の被災地支援では、5月のゴールデンウィークから現地支援を開始し、東北大学課外・ボランティア活動支援センターの藤室玲治先生他、東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室 SCRUM (スクラム) やメンバーとともに、避難所の実態調査、足湯ボランティアなどを行ってきました。足湯や手もみ、会話 (傾聴) を通じて被災され

た方々に肉体的な疲れや不安を少しでも解消し、心の安らぎを取り戻してもらうという“心の復興”を目指しています。

熊本市内の避難所で被災された方々の声を伺った際、特に女性の方から「お風呂に入れないのが辛い」という声が聞かれており、足湯を体験した皆さんに大変喜んで頂くことができました。また、一緒に活動した「熊助組 (くますけぐみ 熊本市工学部社会環境工学科生が主体となって組織するボランティア団体)」の皆さんに、被災された方々とのコミュニケーションや傾聴の大切さなど、HARU の活動を通じて得た震災の経験や教訓を活かしたアドバイスができました。

今後も熊助組と交流しながら、支援活動を続けていく予定です。



▲熊本市の避難所での足湯ボランティア



▲熊本県美里町でのがれき撤去

東北大学地域復興プロジェクト HARU (はる)

東日本大震災直後の2011年3月24日に東北地域の復興支援・地域再生を目的として設立された東北大学公認のボランティア団体。これまで、仙台・東北を中心とする被災地で避難所運営支援やがれき撤去、仮設住宅に入居されている方々の心のケアなど、さまざまな活動を実施。

TEL 022-795-4948 (東北大学課外・ボランティア活動支援センター) E-mail koho@haru-tohoku.org ホームページ <http://www.harutohoku.org/>



熊本へ繋いだ被災者の生活

甚大な被害を受けた熊本の被災地へ4月から現地で被災者のニーズを把握・支援活動などに携わったパーソナルサポートセンター(PSC)のスタッフが活躍しています。

一般社団法人パーソナルサポートセンター(PSC)
相談員

新沼 鉄也 さん(左)

1958年岩手県大船渡市生まれ。
生活困窮者の生活・自立支援をベースに、被災者の生活相談から自立までの課題解決をサポート。

一般社団法人パーソナルサポートセンター(PSC)
事務局

今藤 雄 さん(右)

1975年塩釜市生まれ。
主に被災者の就労支援や、職を得るまでの準備段階としての中間就労支援のほか、仮設入居者の転居支援も行う。

刻々と変化する被災地ニーズを捉え、きめ細かく支援。

—— 熊本では東日本大震災の経験がどのように活かされましたか。

新沼 4月28日に炊き出し道具など一式を車に積み込み、PSCの構成団体メンバーらと熊本へ向かいました。現地では既に地元のNPOなどが支援に入っていました。全壊・半壊した家屋が点在しており、ニーズが見つかりにくい状況でした。そこで避難所近隣の車中避難者などにも聞き取りを行い、要望のあった公園などで炊き出しを行いました。震災時、支援が行き届かない場所を入念に調査し、きめ細かい活動を行ってきたノウハウが、熊本でも活かされたと思います。

今藤 5月13日から6月15日まで、熊本と仙台を何度も往復して支援に当たりました。震災時もトラックに支援物資を積み込み、被災三県の沿岸部のお寺や公民館などの小規模な避難所でニーズを聞いて、翌日には食糧や支援物資を届けました。この経験が、今回の熊本でも役立ったと思います。市内の避難所や区役所を回り、刻々と変化する段階毎に必要な支援を拾い上げ、行政や支援団体と共有し、その後の活動に役立てるコーディネートも行いました。

さまざまな支援団体と組織を超えた連携と情報共有を実施。

—— 他の支援団体との連携や情報共有はどのようにされていたのですか。

新沼 熊本に入る際は、現地の災害支援ネットワーク団体である「よか隊ネット」などと連絡をとりながら活動しました。また5月4日には、「NPOくまもと」と「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)」が開催する熊本地震支援団体の情報共有、マッチングの場である

「熊本地震・支援団体火の国会議」にも参加しました。この会議で、炊き出し支援や避難所運営、がれき撤去、物資支援、医療などの情報を、熊本県内外のNPO・NGO、政府から末端のボランティア団体まで共有できたことは、大きな成果だと思います。

今藤 主に支援ニーズの多かった北区で活動しましたが、火の国会議では、毎日その日の出来事や次の活動計画などの情報を共有することで、より効果的で無駄のない活動ができたと思います。東日本大震災時に連携や情報共有が徹底しなかった反省を踏まえた改善のひとつです。また北区には仙台市から派遣された職員の方も多く、「チーム仙台」として支援活動ができたことも良かったですね。

寄り添い、ともに生活再建を目指す姿勢を熊本に。

—— 今後、熊本に伝えたい取り組みや課題はありますか。

今藤 PSCは生活困窮者の生活及び自立支援を行ってきた「ワンファミリー仙台」ほかさまざまなNPOなどが連携して立ち上げた市民団体です。設立の一週間後に発生した東日本大震災直後から被災者支援に奔走し、仮設住宅での見守り支援事業、翌年には就労支援事業を立ち上げました。現在も被災者が生活を立て直すまでのさまざまな支援活動に取り組んでいます。

新沼 見守り支援は、震災3ヶ月後に始めた事業で、仮設住宅やみなし仮設住宅で暮らす人を支援するため、被災者を「絆支援員」として雇用し、入居者宅を巡回して、心のケアと生活のサポートを行うものです。熊本では今、仮設住宅の建設やみなし仮設住宅への入居が進んでいますが、みなし仮設住宅には支援の手が届きにくく、見守りも難しいことを地元の支援団体などに伝えています。また復興が進むにつれ、被災者の方も自分の要望を伝えるようになっていきます。そうした見えないニーズを汲み取る事も非常に大事だと思います。

一般社団法人パーソナルサポートセンター

東日本大震災直前の2011年3月3日に設立。NPO法人ワンファミリー仙台、仙台弁護士会有志、みやぎ生活協同組合など、さまざまなNPOが連携し、生活困窮者や被災者の生活支援に取り組んでいます。
TEL 022-399-9662 E-mail info-kizuna@personal-support.org ホームページ <http://www.personal-support.org/>

テーマ・インタビュー 繋げる仙台

支援ノウハウと、 生活・就労支援。

向けて、仙台市民によるさまざまな支援が行われました。
把握しながら、他団体等と連携した炊き出し、支援物資配
付サポートセンター(PSC)の取り組みを紹介します。



▲ 熊本地震・支援団体火の国会議の様子

仙台では現在、仮設住宅やみなし仮設住宅から復興公
営住宅への転居が進んでいますが、特に高齢者の方が
転居の際に必要な保証人、緊急連絡先を登録できず苦
労されているケースが多いです。個人の状況やニーズに
応じた、生活再建への支援が必要です。

家や仕事を失った方が生活を立て直すのは容易なこと
ではありません。震災をきっかけに、それまで表面化して
いなかった家族関係や障害などの問題が露わになるこ
ともあります。被災者が置かれている状況や思いをきめ
細かく把握し、次に必要となることを予測しながら、行政
だけでは対応が難しい支援を行うことが私たちの役割だ
と考えています。行政や医療・福祉などの関連機関との
連携・協働を図りながら、不安を抱えている被災者の生
活・就労を支援し、ともに自立までの道を歩む取り組みが、
熊本へ、そして全国にも拡がることを期待しています。



▲ 炊き出しの様子

生活再建・就労支援を実施。

コラム

知ってみよう!

学べる仙台

その時あなたは?

熊本地震から学ぶこと

仙台市地震防災アドバイザー
(仙台市危機管理室減災推進課) 針生 勝広

熊本地震に際し、仙台市では物的支援や職員派遣などの支援を行いました。私は5月3日～11日まで、避難所運営支援業務に携わる仙台市職員の調整役として活動し、熊本市北区にある11ヶ所の避難所を担当しました。市内には瓦屋根が崩れ、青いシートをかけられた家が点在しており、避難者の皆さんから、「家にいると余震が怖い」「家具の転倒防止対策は行っていないかった」「家がバリバリと音を立てて揺れた」「熊本には大きな地震は来ないと思っていた」などのお話を伺いました。

防災・減災に関する「自助」として、建物の耐震診断や耐震補強工事、家具の転倒防止対策が重要だということ、「共助」として、普段から隣近所で顔の見える関係を作っておくこと、また地域で避難所運営マニュアルを事前に作成し、確認しておくことの重要性を改めて感じました。日頃からの備えを行い、改めて防災や減災に対する意識を高く持ちましょう。



▲ 地震で傾いた家(熊本市南区)



▲ 避難所の相談窓口の様子(熊本市北区)

仙台市地震防災アドバイザー室(仙台市危機管理室減災推進課)

TEL 022-214-3109 FAX 022-214-8096

ホームページ <http://www.city.sendai.jp/kurashi/bosai/bosai/0013.html>

知ってみよう!

備える仙台

防災訓練&避難所でのごみ分別体験

7月2日、遠見塚小学校の防災訓練で、「避難所での
ごみ分別体験」を実施しました。震災当時の避難
所での分別状況などについて説明した後、資
源物とごみが混入している分別キット(模擬ごみ)
を使って、普段と同じように分別してもらいま
した。その後職員の説明を受けると、家庭ごみ(焼
却ごみ)に資源物が多く含まれていることに驚い
ている方、今回学んだことを近所の方々に伝え
たいという方がいらっしゃいました。

避難所でのごみの取り扱いは、処理施設の被災状
況によっても異なりますが、基本的には普段の分別
の仕方と同じです。ぜひこの機会に確認してい
ただければと思います。

防災訓練時などに「ごみ分別体験」を実施するこ
とについてご関心のある方は、下記までお気軽に
お問い合わせください。

仙台市環境局ごみ減量推進課

TEL 022-214-8229 FAX 022-214-8840



▲ 分別キット(模擬ごみ)



▲ ごみ分別体験の様子

ごみの分別、
キッチンね!

家族で、地域で、
話し合ってみよう!





▲交流スペース (1 階)



▲展示室 (2 階)



▲イラストマップ (2 階)



▲スタジオ (2 階)



せんだい3.11メモリアル交流館 Sendai 3/11 Memorial Community Center

東日本大震災の記憶と経験を継承するためのさまざまな取り組みを有機的に結び、未来や世界へとつないでいく拠点として、2016年2月、地下鉄東西線荒井駅舎内にオープン。交流スペースや展示室、スタジオといった機能を通じて、みんなで、震災や地域の記憶を語り継いでいくための場所です。

交流スペースやスタジオは、各種ワークショップなどに使用するほか、震災や地域の記憶を伝えていくための市民活動の場としてもご活用いただけます。

住所	仙台市若林区荒井字沓形85-4 (地下鉄東西線荒井駅舎内)
開館時間	10:00-17:00
休館日	毎週月曜日 (祝日の場合はその翌日) / 祝日の翌日 (土・日曜日、祝日を除く) / 年末年始、臨時休館日
アクセス	地下鉄東西線仙台駅から荒井行きで13分
TEL	022-390-9022
E-mail	office@sendai311-memorial.jp/
ホームページ	http://sendai311-memorial.jp/

お知らせ

●「ともに考える防災の未来—私たちの仙台防災枠組講座シリーズ」を開講しました

第3回国連防災世界会議 (2015年3月 仙台市) で採択された国際的な防災指針「仙台防災枠組 2015-2030」を市民の皆様と学び、理解を深めることを通じて、地域や家庭での防災・減災の取り組みに役立ててもらうため、全5回の連続講座「ともに考える防災の未来—私たちの仙台防災枠組講座シリーズ」を開講しました。

8月7日の第1回講座では、「市民のための防災枠組を学ぶ」をテーマに、東北大学災害科学国際研究所の今村文彦所長、泉貴子特任准教授より仙台防災枠組の特徴と多様な主体が防災・減災に取組む重要性などについて講義をいただいた後、参加者でグループディスカッションと発表を行い、理解を深めました。

当日は100名を超える方々が参加し「地域の防災力を高めるためにこの枠組をどう活用したらよいか」「もっと具体的な活用方法について学びたい」などの活発な意見交換が行われました。最後に今村所長から「来年3月の仙台防災未来フォーラム 2017の場などで、市民の皆さんの取り組みを世界へ発表していきましょう」と呼びかけました。



▲「仙台防災枠組」についての講義を行う今村所長



▲第1回講座会場の様子

今後の「仙台防災枠組」講座シリーズ開催予定

※各回個別の参加も可能です。

●第2回「優先行動とステークホルダーの役割」

日時	9月3日 (土) 午前の部: 11:00~13:00・午後の部: 14:00~16:00
会場	せんだい3.11メモリアル交流館
講師	東北大学災害科学国際研究所 村尾 修教授、ボレー・ベンメレン・セバスチャン助教

●第3回「国際間・市民間での協力とパートナーシップ」

日時	12月10日 (土) 14:00~16:00
会場	東北大学災害科学国際研究所 1階多目的ホール
講師	東北大学災害科学国際研究所 小野 裕一教授、マリ・エリザベス・アン助教

●特別講座「大人も子どもともに学ぼう仙台防災枠組」

日時	2017年1月開催予定
講師	東北大学災害科学国際研究所 今村 文彦所長、保田 真理助手

●最終ワークショップ「仙台防災未来フォーラム2017」で発表しよう!

日時	2017年2月開催予定
2017年3月開催予定の「仙台防災未来フォーラム 2017」での発表に向けて、これまで学んだことをまとめます。	

講座シリーズへのお問い合わせ・お申し込みは
下記の仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室にご連絡ください。

仙台防災枠組 2015-2030 とは?

2015年3月に仙台での第3回国連防災世界会議で採択された、2030年までの世界の防災指針です。この枠組には「よりよい復興」「女性、若者のリーダーシップ」「事前の防災投資」「防災の主流化」など、東日本大震災からの復興を進める私たちの経験が、重要な概念や優先行動として取り上げられています。

また、市民、地域団体、企業などの多様な主体 (マルチステークホルダー) が防災・減災に取り組む重要性に触れられているなど、私たちにも身近な内容が多く含まれていることが特徴です。

発行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL: 022-214-8098
FAX: 022-214-8497
E-mail: mac001605@city.sendai.jp

編集 株式会社仙台紙工印刷
発行日 2016年9月

▶「えーる」は防災環境都市・仙台ホームページにも掲載しています。

<http://www.sendai-resilience.jp>

仙台市の取り組みから、市民の方々の取り組みまで、より詳しく紹介しております。

▶次号は11月発行予定です。

タブレットでも! / スマホでも!

